

けいはんなから新しい産業を

【寄稿】

「情報通信第3のパラダイム」に向けて

独立行政法人 情報通信研究機構 (NICT)

理事長 坂内 正夫 氏

【けいはんなを知る】 P10~11

けいはんな記念公園

【注目! 企業インタビュー】 P16~17

京都プレス工業 (株)

【けいはんな歴史と文化】 P18~19

久貝氏と長尾

—正俊寺と菅原神社— (枚方市)

けいはんなビュー

[広報誌]

# View

エコをけいはんなの文化に

## vol.21

P1~  
特集1

座談会「けいはんな学研都市への

期待と抱負」

P12~  
Who's Who?

「吉泉産業株式会社

佐々木

啓益氏」



(公財) 関西文化学術研究都市推進機構  
関西文化学術研究都市建設推進協議会

# 「情報通信第3のパラダイム」 に向けて



独立行政法人  
情報通信研究機構 (NICT)  
理事長 坂内 正夫 氏

いま、情報通信分野は大きな変革期にあると認識しています。これまで、コンピュータや通信システムを作ることが主眼の時代から、インターネット上にサイバー社会を形成し、その中でやりとりされる情報を利活用する時代へと変遷していますが、現在は、サイバー世界と実世界とを融合させ、いかに新しい価値やイノベーションを創出するかが求められる時代、いわゆる「第3のパラダイム」を迎えています。この観点から、これからの情報通信技術は、情報通信だけの分野にとどまらず、防災、観光、農業、医療・介護、エネルギーなどの別の分野や産業との横串となり、様々な社会的課題の解決に貢献していくべきものと考えます。

そのためのキーワードの1つがビッグデータです。NICTでは、公共性を有し社会貢献に資するビッグデータを「ソーシャル・ビッグデータ」と位置付け、これが社会基盤として社会全体に横断的に活用され、その結果得られる知識や情報が広く普及することを目指し、その研究開発に重点的に取り組んでいます。

NICTは、ここけいはんな学研都市に研究拠点を構えて今年で14年になりますが、今では、新しいパラダイムに対応して、膨大な情報をコーパスとして集めて処理を行う音声翻訳技術や、ネット上の大量の情報を収集し、分析・分類を高速に行う情報分析技術などの研究開発において世界をリードする成果を挙げています。

NICTは今後も、様々な技術分野の機関が集積し、地域の自治体等との連携が進んでいるけいはんな学研都市の地の利を得て、グローバルでオープンな産学官連携の研究開発を一層推進し、豊かで安心・安全な生活、活力に富む社会の実現に貢献してまいります。

# 座談会 「けいはんな学研都市への 期待と抱負」

昨年、今年、そして来年と、けいはんな学研都市への企業立地が好調です。精華・西木津地区で8年目の事業活動を展開する日本ニューロン、木津地区で間もなく進出1周年を迎えるタツタ電線のタツタテクニカルセンター、国立国会図書館関西館の隣に来年5月、基盤研究の新拠点を開設するサントリーグループから3氏をお招きし、関西学研都市推進機構の稲田進・常務理事を交えて、けいはんなへの期待や抱負をうかがいました。(2月7日、けいはんなプラザ「ラ・セーヌ」で実施。司会は常山広・弊機構コーディネーター 以下敬称略)



## <都市の現状 3社の概要>

—まず、最近のけいはんなの状況を、稲田常務理事から説明します。

### ▶▶ 第二の「モチ期」—関西学研都市—

稲田—大型の研究施設や、オンリーワンの技術を持った中堅企業の立地が好調です。第二の「モチ期」と言われ、人口も、京都府下の学研都市エリアでは、毎年1000人のオーダーで増加しています。

都市は、サード・ステージ(2006-2015年)の後半に至りました。課題としては、産官学連携や住民と立地機関の連携で、もっと学研らしさを出そう。それと、中核的研究機関の機能強化、新産業創出に向けた企業支援の強化、交通インフラの整備などに取り組んでいます。

立地施設の数は、エンゼルブレインディングカードの開業で、14年春段階では123社になります。同社は、トランプカードの偽造防止で世界レベルの技術を持っておられる。15年のサントリーに続いて、16年には大幸薬品が吹田市から精華町に、京都大附属農場も高槻市から木津川市に移転して来られます。

研究の実用化や産学連携ネットワークに関しては、情報通信・バイオサイエンス・物質創成の3つの研究科で国内トップクラスの研究成果を出しておられる奈良先端科学技術大学院大学(以下「奈良先端大」と略称)のほか、ATR(国際電気通信基礎技術研究所)、RITE(地球環境産業技術研究機構)などを中核に、活発に進展しています。

旧「私のしごと館」は3月末の京都府への譲渡後に、オープンイノベーションの拠点として整備されます。府と京都大が設けた協働パネルの特別参与に、国会図書館前館長の長尾真先生(元京都大総長)が就任。関西経済連合会、京都商工会議所、学研都市推進機構や地元の首長さんも参加して、どう使うかを検討中です。

今のところは、健康づくりの「スマートライフ」、植物工場や機能性食品の「スマートアグリ」、歴史資産の継承や科学教育の「スマートカルチャー&エデュケーション」、未来都市創造に向けた「スマートエネルギー&ICT」の4分野の共同研究の場とし、展示や交流の機能も持たせようという考え方です。



「3社の事業内容を説明ください。進出時期の古い順番に、伸縮管継手では国内トップシェアの一角を担う日本ニューロン岩本社長からお願いします。」

▶▶ **パイプラインの安全守る—日本ニューロン—**  
岩本—40年前に父が大阪府門真市で、鉄工所を開業。四條畷市、大東市を経て、07年に「終(つい)のすみか」の覚悟で、けいはんなに移りました。伸縮管継手の専門メーカーです。

プラントなど配管のある場所には、必ず伸縮管継手があります。配管の熱膨張や振動の吸収、ライフラインでは地震や地盤沈下の吸収で、安全装置として緑の下で機能しています。基本的には、ニッチな市場です。オーダーメイドで職人技で製造しますから、売上規模や人員で、そんなに大きな企業は国内にはありません。最近ではガスタービンのパワーアップが望まれて、4寸の直径を5寸に太くした伸縮管継手を、ここで製造して納入しています。

産学連携では、移転前に京都府から紹介いただいた同志社大理工学部と金属疲労で。大阪大接合科学研究所とは、溶接技術で。京都大宇治キャンパスの化学研究所とも塑性加工全般で、継続してつながっています。私どもの会社の実力レベルでは、なかなか面倒を見ていただけない大学ばかり。有形無形の果実が、いろいろあります。



日本ニューロン株式会社  
代表取締役  
岩本 泰一氏

▶▶ **機能性フィルムで世界トップ—タツタ電線—**  
辻—タツタ電線は東大阪市が発祥で、今も本社と大阪工場があります。社歴は70年ほど。関西を基盤に、電力用と通信用の電線・ケーブル類を主要製品として事業運営をしてきていましたが、近年は電子材料分野の製品群にて事業拡大を図っております。主要製品は機能性導電フィルムで、圧倒的な世界トップシェアをいただいています。

スマートフォンやタブレット端末の中に入る部材で、電磁波ノイズを制御するものでシールドフィルムと呼ばれています。スマホなどのマーケットが伸び、事業規模が拡大しました。

フィルムは大阪工場と京都工場(京都府福知山市)で生産していましたが、大阪工場が手狭となりました。供給責任を果たし、新たな事業創出のための開発強化も図るとの観点から新拠点の「タツタテクニカルセンター」を木津地区に開設。昨年5月から操業を始めています。

大量生産の拠点は福知山で、研究開発と試作と少量多品種生産をセンターで、という位置付けです。出荷先は中国、韓国、台湾など海外がほとんど。木津には、関西国際空港に近いという利点もあります。



タツタ電線株式会社  
執行役員  
タツタテクニカルセンター  
センター長  
辻 正人氏

▶▶ **次世代に向けた基盤研究—サントリー—**  
藤原—サントリーグループの歴史は、110年以上です。「寿屋」が発祥で、ワインからスタートし、本格ウイスキーとビールに進出。清涼飲料や健康食品に領域を広げました。

昨年は、サントリー食品インターナショナルが株式を上場。新年早々も、米国の蒸留酒大手ベーム社のM&Aが話題になりました。業界には、巨大なワールドワイドのプレイヤーがひしめいています。こうした市場で世界的に生き残るために、経営方針としてグローバル化を推し進めています。

サントリーには、創業者 鳥井信治郎の「やってみなはれ」のチャレンジ精神があり、研究開発部門にも受け継がれています。基盤となるバイオ研究で発見した物質が健康食品として商品となり、商品の原料となる植物が研究対象ですので、派生した花事業からは、世界初の「青いバラ」が生まれました。

部門の機能の商品開発と基盤研究は東西に分かれており、商品開発は大消費地に近い川崎市の商品開発センターで行っています。

世界的に見ると私たちの業界では、開発機能主体で、研究機能を持たないケースもありますが、ワールドワイドな活動を行う上で、最も源流となる研究機能は重要です。しかし、現在この機能は、大阪府島本町の3カ所に分散し、老朽化していましたので、20年、30年先の次世代を見据えた、しっかりした研究基盤を作りたいという論議になりました。いろいろな観点を検討した結果、関西学研都市が候補となり、国会図書館関西館のお隣が空いていたご縁もあって、立地が決まりました。

京都府の山城地域には、サントリー食品工業の宇治川工場があります。上流の水系の森林を保護する協定を、10年に木津川市、井出町、和東町、笠置町、南山城村、京都府、京都モデルフォレスト協会との間で締結し、森林の整備活動を進めています。私たちの工場は、大量の水を使用します。工場全体でくみ上げる量以上の水源涵養面積を保護しようと、十数年前からこうした「天然水の森」活動を全国で展開しています。



サントリービジネスエキスパート  
株式会社  
新研究拠点建設  
プロジェクトチーム  
マネージャー  
藤原 正明氏

<立地の狙い、都市の魅力、留意点>

「けいはんな立地の背景、都市の魅力、立地に当たって、留意された点をお話してください。」

▶▶ **環境配慮型の社屋—日本ニューロン—**  
岩本—業容拡張のため、生駒山を越えて精華・西木津地区に来ましたが、広い敷地が確保できたのと、低利融資など資金繰り面の優遇措置がありがたかったですね。それと、人材の採用です。移転後の最初の

募集に1時間で46人から電話が入り、驚きました。社屋の施設面で言うと、もともとが東大阪の周辺でしたが、金属系の鉄工所でも環境への配慮が評価される時代が来るだろうと、ずっと思っていたんです。自分の中に溜(た)めていたものを、移転で一気の実現できました。

4本の柱があって、ひとつは本社敷地内のビオトープ。水生系の植物やモロコ、タナゴを回生させて、夢に見ていたエリアを設けました。本社屋上の緑化では、芝生のほかに果物、野菜、樹木の菜園。あとは、10kw程度ですが太陽光発電システムを導入し、雨水を循環させて工業用水に再利用しています。



日本ニューロン本社 環境配慮型社屋

「社長は「精華まちづくり協議会」の副会長も務めておられます。けいはんなプラザの日時計広場のレーザー光線復活で、中心になって動かれました。」

岩本—協議会は09年に発足し、研究開発型の中堅中小企業24社が加盟しています。精華大通りに所在して、ギネスブックに載っている日時計の先端から、北極星に向けてレーザー光線が照射されていたけれど、故障で長くストップしたまま、と。協議会で話題になり、「復活させましょう」。メンバー会社だけでなく、地域住民や大手の立地企業、研究機関にも資金面で多大な支援をいただいて、12年3月に再点灯できました。16年ぶりの復活です。東日本大震災の1年後でしたので、犠牲者の鎮魂の意味も込められています。現在は日没の30分後から午後10時まで、毎日点灯。天候によりますが、同志社大の京田辺キャンパスからも見えるそうですね。けいはんなのシンボルとして、永遠に照射が続くよう願っています。

稲田—立地企業によるまちづくり協議会の設置は、大阪府枚方市の「津田サイエンスヒルズ」が先行しましたが、精華・西木津でも役員を出し、主体的に取り組んでおられます。レーザー光の復活には住民も積極的にバックアップし、点灯式のイベントには大勢参加されました。立地機関と地域住民との連携という意味で、成果でした。

▶▶ 施設の「見える化」を—タツタ電線—

辻—テクニカルセンター新設の目的は、会社の将来を担う新商品や新規事業の創出です。場所に関しては、従業員の通勤がありますので、東大阪から通える範囲がいい。それと、福知山もそうですが、海外のお客様が多いので、「京都」のブランドに意味が出ます。

世の中にない、世界に通じる新商品を開発するには、他社との連携が不可欠です。自社のコア技術と各業界トップの技術やノウハウを組み合わせ、顧客のニーズに対応した他社にまねのできない新商品を開発するというのがコンセプトです。そのための各種試作も含めた研究開発環境が整った所を探そうと…。木津地区への立地は、そういう背景です。センターの敷地面積は約4万5千平方メートルで、二つの棟があります。5階建ての研究開発の専門棟と2階建ての工場棟で、従業員は約120人。投資額は約50億円です。

一般的ななじみのある最終製品を作っている訳ではありませんが、研究開発棟にも工場棟にも見学コースを設け、できる限りガラス張りの「見える化」施設にしています。お客様はもちろん、材料の調達先も地域の皆さまも、見学を希望される方には極力オープンにして、当社の技術力や開発力のレベルを、また環境に配慮した安全・安心な施設だねと、タツタの姿勢をご理解いただきたいと考えています。

先日は、京都造形芸術大のキャラクターデザイン学科の学生さんと先生が、課外授業でバス2台で来訪。施設説明と見学の後に、センターのイメージをキャラクターにして描いていただきました。作品を各ページごとに印刷したメモ帳を作成し、学生さんにお渡しして、関係先にもご紹介したいと思っています。

稲田—京都造形芸術大の学長は、国際高等研究所前所長の尾池和夫先生です。先生は、関西学研都市の名称に「文化」が冠してあるように、科学技術だけでなく、文化面での交流も必要と、以前からおっしゃられています。

辻—私もまだ立地したばかりですが、先日、木津地区への進出企業の懇談会が木津川市の主催で開催され、初めて参加しました。市と包括協定を結んでいる同志社大もオブザーバーとして参加されましたが、各社の業務内容などを知るいい機会になりました。

地元の歴史や地域の特産品なども、こうした場で勉強して、互いにいろんな話し合いが今後もできてい

けばいいな、と。これは、参加した皆さんの共通認識だろうと考えています。



タツタ電線 工場棟(コーティング室)

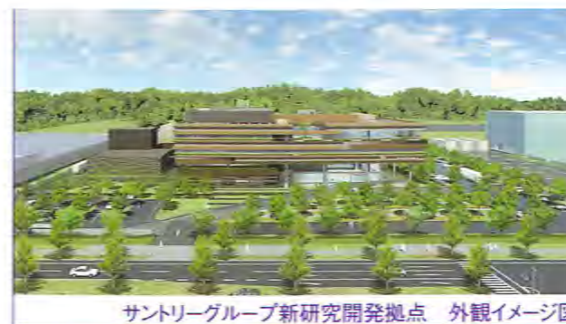
—サントリーグループの新拠点での研究活動には、多くの関係者が期待しています。

▶▶ 5月着工、400人以上に—サントリー—

藤原—けいはんなでの基盤研究のメインは、バイオとライフサイエンスです。バイオに関しては「植物」や酵母などの「微生物」関係。水に関しては、伏流水の流れや森林涵養などを技術的に検証する水文(すいもん)学の研究も行っています。ライフサイエンスでは、「健康科学」の領域が中心です。サントリーウエルネス社として健康食品は事業化されていますが、お客様の健やかな日々をサポートして豊かな生活を送っていただく分野です。ここでは研究だけでなく開発の機能も新拠点に参ります。また、佐治敬三が設立した歴史ある公益財団法人・サントリー生命科学財団・生物有機科学研究所がこの地に移ります。食の安全の重要性が増していますが、品質保証の評価技術を担う機能も新拠点で活動します。

新拠点は4階建ての建物の本館と実験棟と温室で構成され、敷地面積は約4万9千平方メートル。この新拠点の勤務者数は、400人を超える規模となる見込みです。5月に着工し、竣工は来年5月の予定です。

我々の主力商品は「酒類・清涼飲料」、コーポレートメッセージは「水と生きる」です。商品が持つソフトなムードで、皆さんの媒介として存在し、けいはんなを潤す「水」になりたいと考えています。



サントリーグループ新研究開発拠点 外観イメージ図

<期待と要望 抱負と課題>

—けいはんな学研都市への期待や要望、それぞれの抱負や課題をお聞かせください。

▶▶ 立地機関・クラスター間の交流と連携—

藤原—京都大附属農場が木津中央地区に移転して来られますし、奈良先端大の研究も活発です。新しい「しごと館」の研究領域には、「スマートアグリ」「スマートライフ」が含まれると聞いています。こうした環境の中で、サントリーがしっかりした役割を果たせれば、と思います。

ただ、これらの領域だけで21世紀のビジネス創出が可能だとは、私たちは考えていません。ビジネスに直結しない場合でも、異分野異業種の研究者と触れ合って、フランクに話し合うことが刺激になり、新たな発想が生まれます。そういった偶発的に発生する研究者への刺激に、大いに期待しています。

研究者は確かに忙しいのですが、自分の領域だけを深掘りして、何かが生まれる時代では多分ありません。もっと、外部とつながっていく研究所を志向したい。私自身のキャリアは研究者ではなくて、設備設計のエンジニアなのですが、新拠点開設に向けて、この地での当社としての知の交流ネットワークを深めていきたいと思っています。

辻—地域の一人としての勉強と併せて、電線や光ファイバーケーブルで培った技術を集めて、電子材料の周辺分野や医療機器分野など新規分野で、次世代商品の研究開発に力を入れていきます。いろんな連携で、成果を出していかないとはいけません。

これまでも、京都産業21や京都試作センターとのお付き合いはあります。京都大桂キャンパスのベンチャープラザに設けたラボで研究開発も行っていますが、まだ、緒に就いたばかり。地元の奈良先端大などとも、テーマが合えば、いろんな協力や連携をさせていただければ、と考えます。

研究者に刺激を、という先ほどのお話に関連しますが、センターで毎月1回、外部の講師を招いてセミナーを開催。テーマは他分野の最新技術だったり、生産技術だったり、ペット介護のニュービジネスを始めた社長さんとか、仕事に直接関係しなくても、知見を広めて研究に生かされればいいと考えています。

木津川市の方にも地域の文化や歴史を話していただくこと、調整中です。せっかく多くの研究機関がある学研地区に來させてもらってますので、外に出て交流させていただく機会も増やしていきたいと考えています。

岩本—関西学研には12のクラスターがありますが、連携が十分ではないと、私見ですが感じています。交通アクセスも、例えば精華・西木津地区と木津地区は京奈和道できれいに一本でつながりますが、高山地区は国道163号線に回らないといけません。

稲田—クラスターの成熟度に差異はありますが、第二京阪道の開通などで(学研エリアの)外とはつながってきています。クラスター間の交通に関しては、163号線の拡幅や木津中央地区のアクセス道路などの必要性を、最近国にも理解をいただき始めています。まずは、道路や公共交通機関の整備が先ですね。

(人の交流などの)ソフト面に関しては、研究者レベルの交流を立ち上げたいと、今、思っているところです。皆さんのご協力とご支援を得て、やらねばいけないと考えています。

研究者は忙しい、時間的な制限があって、外に出ていけないという話がありました。推進機構で開いているいろんな研究会や協議会でも、そう感じています。今、考えているのは、開催時間は最小限にしたいのですが、会社の業務の一環の場なら参加していいよ、という雰囲気を会社サイドで持っていただけないか…。仕事が終わるのは午後6時ごろですが、例えば1時間半ほど早い開始時間からでも、その日だけはいいと、会社の理解をいただけないだろうか。そういうお願いを進めています。



(公財)関西文化学術  
研究都市推進機構  
常務理事  
稲田 進

▶▶ まちの活性化、国際化、ブランド力

藤原-精華町の学研エリアは、住居と働く場所が近いイメージですね。移転に際して最近、よく話題になりますが、研究開発の部門には、女性が結構多いのです。子どもさんをお持ちの研究者とかですね。

女性の働きやすさが、まちのインフラに組み込まれて、利用しやすい環境が整っている…。女性の研究者は今後かなり増えていきます。そうした点で、世界に向けて何か特長を打ち出していなければ、と思います。

稲田-国際化は重要な課題で、京都や奈良は日本の発祥の地です。地域のアイデンティティを大切にする観点は、非常に必要です。

3月26、27日の「京都スマートシティエキスポ」は、日本スペイン交流400周年事業の一環ですが、スペイン側は「エキスポを日本で開くなら、京都で」と希望したと聞いています。けいはんなが(初日の)会場になったのは、その意味でもいいと思っ

ているんですけどね。  
岩本-ハローワークで女性を募集したら、徒歩10分以内圏で、バイリンガルの方が3人応募されました。ご主人の赴任地の関係で、スペイン語ができる人も。そういう方が、近隣におられます。そういったところが、ありがたい。

「情報」と「ブランド力」は、京都の南の端ですが、すごく整いました。立地して、これくらい有効だった利点はありません。中小企

業のメンバーの横のつながりは、協議会での「飲みケーション」を含めてありますが、大手企業さんとのちよっと砕けたコミュニケーションができれば、と希望しています。四半期に1回程度、垣根を低くして、いろんなテーマで話し合えば、勉強になります。中小企業側もプレゼン能力を高めて、自社のコア技術はこれです、と説明できないと…。私たちの新商品は、全く門外漢の方の助言が生まれました。そういう機会を増やしたいのです。

協議会には20代、30代の若手主体の運営委員会があって、年2回のボーリング大会が活況です。オープンにして木津地区や津田サイエンスの皆さんと連合で開催できれば、交流の輪のスタートになります。

稲田-ブランドは、プライドだと思うんです。自分たちがここにいることを、よしと思わない限りは出てきません。推進機構も取り組みのひとつとして、名刺の住所には「けいはんな学研都市」と印刷しています。立地企業の皆さんには、商品のパッケージや梱包に、けいはんなのシンボル・マークを入れていただきたい、とも考えています。

岩本-サントリーさんなど新規企業の進出は、うれしい限りです。まちが都市らしく、より血が通っていくと楽しみにしています。

稲田-本日は有意義なお話を、直接に伺えて、けいはんなへの思いの共有を確認できました。誠にありがとうございました。



けいはんなプラザ 日時計広場にて

Topics 1

# 「けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会」 2013年度の活動を総括

「けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会」(理事長:松下正幸パナソニック㈱代表取締役副会長)は2002年に設立された任意団体で、(1)情報通信技術(ICT)分野の産学官連携による研究開発の推進、(2)関西のICTポテンシャルを引き出し、新技術の開発、人材の育成、新産業の創出促進、(3)世界最先端のICT国家実現に向け関西が役割を担うとともに関西経済の活性化にもつなげていくこと、を目指しています。

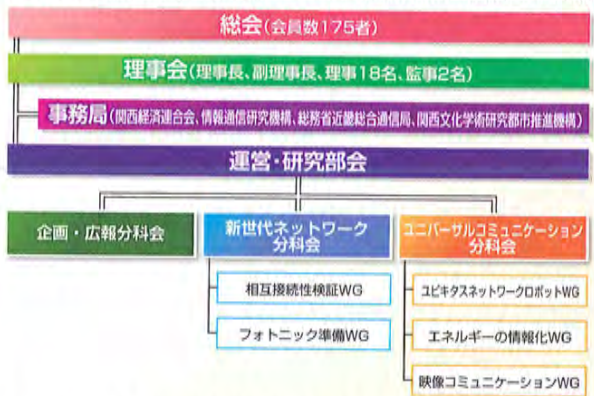
2013年度は、図1記載の分科会やワーキンググループ(WG)による通常活動に加えて、企業・大学等の産学官連携関係者間の交流促進、及びICTに関する研究開発活動の普及・啓発を目的とした様々なセミナーやシンポジウムを開催しました。

具体的には、6月7日、第12回『総会』を開催し、2013年度の活動計画等の承認を頂きました。総会後半部では、大澤勲氏(失敗学会理事・大阪分科会会長)より『失敗に学ぶー航空機事故と安全システム』と題した大変示唆に富んだご講演を頂きました。また、9月13日、第12回産学官連携セミナー『ICT Advanced Seminarーうめきたから発信するICT先端技術』をテーマに、新たな産学官連携の場である大阪うめきた・ナレッジキャピタルにおけるICT分野の取組みを紹介するセミナーを近畿総合通信局他と共催。さらに、同19日にはナレッジキャピタル(大阪会場)と国立情報学研究所(東京会場)とを光回線をつなぎ、双方向4K超高精細映像伝送を用いた手話による「異分野融合ワークショップ『手話・社会・技術』」を実施。

そして、12月6日、「ロボティックサービスの最前線から未来へ」をテーマに、『けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム』を4年ぶりに東京で開催し、関西におけるロボットに関する最新の研究成果を紹介。ATRフェローの萩田紀博氏(「ロボティックサービスの将来展望」)、パナソニック株式会社の北野幸彦氏(「病院の未来のカタチー活躍しはじめた『人共生・自律ロボットHOSPI』」)、そして大阪大学特別教授・ATRフェローの石黒浩氏(「そっくりのアンドロイドロボット(「存在感メディアの研究」)」)が登壇し、それぞれのテーマで講演頂きました。当日は100名近くの方々に出席頂くと共に、「アンドロイドのリアルさや動きの自然さに未来を感じた」、「関西の研究成果をもっと知りたい」等の率直な声を頂く等、大変好評を得たシンポジウムとなりました。

3月27日には第13回産学官連携セミナー『ICT Advanced Seminarー減災に貢献するICT先端技術』を共催するなど、「けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会」は、関西における産学官連携の良きモデルとなること、そして関西をICTの研究開発拠点として一層発展させていくことを目指し、今後とも積極的に取り組んでまいります。

(図1)けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会の体制



第12回総会



けいはんな情報通信  
オープンラボシンポジウム2013

Topics 2

# 環境学習施設「けいはんなe<sup>2</sup>未来(イーミライ)まなびパーク」が平成25年12月3日にオープンしました!!

京都府は平成25年12月3日、(株)関電エネルギーソリューションが建設・運営する「けいはんな太陽光発電所」の運転開始と連動して、再生可能エネルギーの普及啓発に活用することを目的に、『けいはんなe<sup>2</sup>未来まなびパーク』をけいはんなプラザボ棟11階(けいはんなe<sup>2</sup>未来スクエア隣)にオープンしました。

この施設は次代を担う子ども達に、省エネや地球環境にやさしい再生可能エネルギーの大切さについて、体験しながら理解を深めていただく参加・体験型の施設です。

この施設からは、けいはんな太陽光発電所を一望することができ、またけいはんなエコシティの姿と、主要な施設のあらましをジオラマと映像で体感できるなど、子ども達がわくわくしながら環境やエネルギーについて学ぶことができます。

※e<sup>2</sup>:ecology, energy

この名前は、次代を担う子ども達がエコロジー(ecology)とエネルギー(energy)について理解を深めていただくことを願い名づけました。



### けいはんなエコシティの紹介

都市のジオラマと映像で、けいはんなエコシティで行われている環境・エネルギー関連の取組を解説。けいはんな太陽光発電所の発電量等をリアルタイムで表示。



### けいはんな太陽光発電所の紹介

けいはんな太陽光発電所で使用しているパネル(実物)を展示し、本発電所の特徴を紹介。

本施設から、けいはんな太陽光発電所を眼下に一望できますので、是非、ご覧ください。



### 電気をつくってみよう!



既存エネルギーと再生可能エネルギーによる発電の仕組みを解説。発電キットで再生可能エネルギーの仕組みを体感。

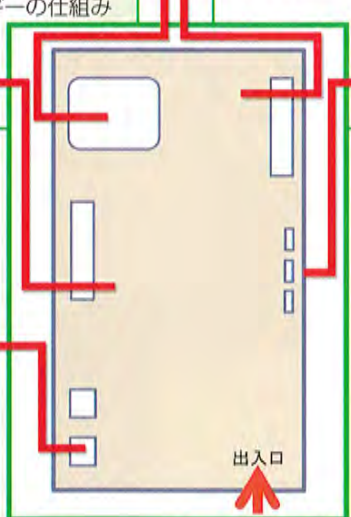
### 太陽光発電のことを知ろう!

太陽光発電の特徴等を詳しく解説。太陽光発電で作られた電気が家庭に届くまでのシステムの構成などを学べます。



### 再生可能エネルギーについて学ぼう!

映像とパネルで、限りあるエネルギー資源、地球温暖化、太陽光発電などの再生可能エネルギーを解説。



**問合せ・お申込み**

予約制ですので、見学を希望される方は事前にご連絡をお願いします。

開館日 月～金曜日 9:00～17:00  
(祝日、年末年始を除く)

**お問い合わせ先**

京都府政策企画部  
文化学術研究都市推進課  
(0774-95-5035)



## Topics 3

# けいはんなプラザ・プチコンサート 700回を突破! 初めて「Jazzのタベ」を開催

平成10年11月から毎週水曜日の12:15~12:45、けいはんなプラザ・アトリウムロビーで開催中の「けいはんなプラザ・プチコンサート」は「プチコン」として親しまれ、昨年の10月に通算700回を超えました。

このコンサートは、けいはんな学研都市の文化の発展と賑わい創出、そして時代を担う若手音楽家の育成を目的として、入場料無料で開催しています。「若い音楽家の熱意があふれるプチコンの演奏」を楽しみに年間4,000人を超える聴衆が来場され、また、「貴重な演奏経験が積める場」として出演者にも非常に好評で、関東や東海地域からも出演依頼があります。



この1年間に、スペシャルコンサートを2回開催しました。

8月21日(水)、「夏休みコンサート・スペシャル」として、大川信之さん(テノール)と中山博之さん(ピアノ)の著名音楽家に出演していただき、11月9日の土曜日には、15周年・700回の記念として



パーカッションコンサートを開催し、同時開催の「けいはんな情報通信フェア」との相乗効果で、休日にこられたご家族や小さなお子さん連れなど、新たな客層の方にもプチコンの魅力を楽しんでいただきました。



今年度は、新たな試みにも取り組みました。

ひとつは、9月18日(水)、国立国会図書館関西館の大会議室前ホワイエの開放的な場所で、関西館が保存されている「歴史的音源」の紹介と、その「歴史的音源」の曲を含めた演奏を行い、関西館を訪れた方に、マリンバの豊かな響きとけいはんな学研都市の立地機関の素晴らしさを再認識していただきました。

もうひとつは、初めてのジャズライブ演奏「Jazzのタベ」です。

10月11日の金曜日、18:15~19:00の夕方、ピアノ&ヴォーカルとフルートの女性2人による柔らかくゆったりとした深みのある演奏が流れ、アトリウムロビーはいつもとは違った音楽の感動に包まれました。



好評な「Jazzのタベ」は、3月28日の金曜日の夕方に第2回目を開催します。

気鋭の若手演奏者として知られるテナー・サクソ奏者の栗田洋輔さんを中心とするカルテットに人気ヴォーカリストとして活躍する平野翔子さんを加えた5人の演奏が、再び大きな興奮を呼びます。

これからも、毎週水曜日、プラザでの若手音楽家によるフレッシュな定例コンサートを中心としながら、新しい演奏場所や客層の開拓、「Jazzのタベ」の開催など、積み重ねた伝統に斬新な魅力をプラスしたプチコンを、皆様に楽しんでいただきたいと思います。



# 文化を大切にした、水と緑のあふれる公園 けいはんな記念公園

(京都府立関西文化学術研究都市記念公園)



けいはんな学研都市の中心部分に立地する「けいはんな記念公園」。正式名称を「京都府立関西文化学術研究都市記念公園」といいます。

その名前の示す通り、けいはんな学研都市の建設を記念し、文化の拠点となることを目指して整備されました。中でも「水景園」は平安建都1200年を記念して整備された日本庭園です。

豊かな自然の残る広大な敷地には、春の桜、秋の紅葉のほか、四季折々の景色が楽しめます。また週末には、季節の伝統行事やアート、音楽、マーケットなど様々なイベントが催され、市民の憩いの場となっています。

## ◆けいはんな記念公園 (京都府立関西文化学術研究都市記念公園)

### けいはんな記念公園 Keihanna Commemorative Park

日本の文化や風土をテーマに設計された「けいはんな記念公園」。敷地面積4haの芝生広場は棚田状になっており、山すそをせせらぎが流れ、子供たちはザリガニ釣りや水遊びを楽しみます。約300本ある桜が満開の時期にはお花見客で賑わい、夏にはホタル鑑賞、秋には真っ赤に燃える紅葉、冬は渡り鳥や雪景色など、四季を通じて楽しむことができます。



#### お問い合わせ

- 所在地 〒619-0238 京都府相楽郡精華町精華台六丁目1番地
- 電話 0774-93-1200
- FAX 0774-93-2688
- MAIL info@keihanna-park.jp
- URL http://www.keihanna-park.jp/
- twitter https://twitter.com/kouenkeihanna

#### 【概要】

- 開園:平成7(1995)年4月29日
- 総面積:24.1ha
- 所有:京都府
- 管理運営:指定管理者 植彌加藤造園株式会社
- 年間利用者数 約60万人
- 受賞経歴
  - 第11回全国都市公園コンクール建設大臣賞(設計部門)
  - 第13回全国都市公園コンクール建設大臣賞(施工部門)
  - 第16回全国都市公園コンクール建設大臣賞(管理運営部門)

#### 【アクセス】



## 自然回遊式庭園 水景園 Suikei-en

平安建都1200年事業による整備  
京の庭師が総力を挙げて作庭した、  
現代の日本庭園

水景園はけいはんな学研都市の文化の拠点としてつくられた日本庭園です。回遊しながら、自然と人が織りなす空間を様々な距離・角度で楽しめるのが特徴です。ダイナミックな石組や各所に流れる滝、季節を彩る風景のほかコイのエサやりもでき、大人から子供まで楽しめる、市民のための庭園となっています。



#### ▶観月橋

格子をイメージさせる歩廊橋。高さ10m、長さ123m、幅4m。庭園を空中より望めます。



#### ▶水景棚

棚田状の水盤がつなく、日本最大級の滝組。飛び石を利用して滝の近くまで行くことができます。



#### ▶巨石群

日本最大級の石組。岡山県犬島より運び込まれた最大重量70tの鎮御影石、約500個からなる一群。



#### ▶紅葉谷

京の庭師が生み出した見事な造形美。約120本のモミジと点在する池や小滝。青紅葉から紅葉まで四季を通じて楽しめます。



#### ▶芽ぶきの森

森の散策が楽しめ、春のツツジや夏の木漏れ日、秋の紅葉、冬の水鳥など四季折々の自然が満喫できます。

#### 水景園利用案内

##### 入園料

一般	200円
小・中学生	100円

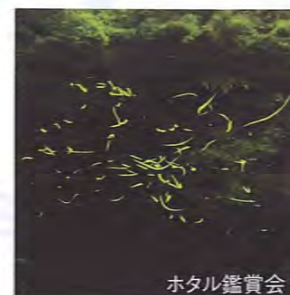
##### 開園時間

開園	午前9時
閉園	午後5時

\*60歳以上の方は年齢証明書の提示で入園無料

4月29日は開園記念日!  
今年は20年記念事業として水景園を無料開放!!

### 主な年間イベント



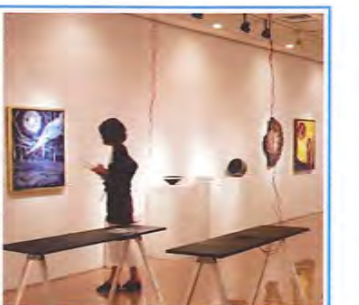
ホタル鑑賞会



夕涼みジャズライブ

#### ギャラリー 月の庭

(水景園 観月橋一階)  
公園からアートを発信しています。企画展や公募展のほか、一般の方に貸出を行い、年間を通じて様々な展示会を開催しています。



観月の夕べ



紅葉ライトアップ

そのほか、日本の伝統行事やコンサートを開催しています。詳細は公園HPをご覧ください。

#### さがなか せめんでんしょうかん 相楽木綿伝承館

(水景園 観月橋地階)  
明治初期から昭和10年代にかけて、京都府南部の相楽村(現木津川市相楽)を中心に生産されていた相楽木綿の展示や機織の実演などをご覧いただけます。  
\*機織体験もできます(要予約)

- 開館日:日月木全
- 開館時間:10時~17時
- 問合せ:080-6186-9233
- 夏期・冬期休業有

# Who's Who?

## Number 4

◇吉泉産業株式会社 代表取締役  
津田サイエンスヒルズ  
まちづくり協議会会長

佐々木 啓益 氏



### Profile

- 1977年 大阪大学工学部冶金学科 卒
- 1979年 大阪大学大学院工学研究科 修了  
ダイキン工業株式会社 入社
- 1983年 吉泉産業株式会社 入社
- 1990年 代表取締役
- 2005年 津田サイエンスヒルズまちづくり協議会会長
- 2006年 ひらかた地域産業クラスター研究会会長



画像処理技術を応用した切り身スライサー「スーパー魚やさん」

**食材を切る！**  
けいはんな学研都市の一翼を担う「津田サイエンスヒルズ」(大阪府枚方市)には、オンリーワンの技術力と開発力を持った中小企業や中堅企業が集積しています。野菜、肉、魚などの業務用スライサーで業界トップの吉泉産業株式会社も、その一社。「食材を切る。合理的に、美しく!」。ものづくりにこだわり続ける佐々木啓益社長(ささき・けいえき=61)の永遠のテーマです。

## 「津田ヒルズ」から躍進 オンリーワン技術で

### ◇父親から受け継ぐ「自前主義」◇

生まれ育ちは大阪府守口市です。父(故・廣積氏)は刃物の熱処理の技術者で、京阪電鉄の土居駅前にあった自宅で、機械製造の会社を興します。昭和40(1965)年に父が開発した丸刃型万能スライサーは、ネギの細断に便利と、うどんチェーン店向けに大ヒットしました。

府立市岡高校から大阪大工学部に進んで、冶金学科で非晶性金属のアモルファスを学びます。まだ世の中に存在しない最先端技術で、液体金属をどう急激に冷却すれば、非晶質になるのか。製造装置の基礎的な研究をしていました。

就職難の時代でしたが、大学院からダイキン工業に入社して、エアコンのコンプレッサーの設計に携わります。インバーター方式のエアコンがまだ販売されていなくて、冬場の暖房能力をどう高めるかの競争でした。アイデアがひらめくと、私はすぐに「これで、やりましょう」。企業は「いや、時期尚早だ」。私は、新しいものが作りたい。そこがちょっと物足りなかったんですね。父も、いずれ帰ってほしいと言っていましたので…。ダイキンには、5年間ほど勤めました。

戻りましたが、年をとった熟練の職人さんばかりですし、もの作り方の部分で、父と軋轢(あつれき)はありました。私は量産の現場を見ているので、餅は餅屋で、部品は加工の上手なメーカーに外注すれば、静かで耐久性もある。と、父は、歯車付きの変速機も図面を引いて、自分で製造して、販売もするタイプでした。「コスト的に合わない。自前なら、失敗しても部品の材料費と人件費だけだ」。

ただ、先代社長が正しいと、自然な流れで気が付きました。(スライサーなどの生産)台数は少量です。食品機械のようなニッチな市場で中小企業がやっていくには、開発設計はもちろん、部品も、組み立ても、販売も、商品分かっている社員がメンテナンスも改良も、自前でやる。それが、一番合っているんですね。

3次元レーザーやレーザー溶接機を導入して、内製化率は今、8割に達しています。「100%を目指そう」と社員に言っていますが、たどり着いた結果は、先代と同じことですね。

### ◇サイズ・価格で大手競合社に対抗◇

業容拡張のため、平成2(1990)年、本社と工場を交野市に新設しました。移転を目前に父がリンパ腺腫で亡くなり、社長を継いで、すぐに壁にぶつかります。

新幹線車両の大手メーカーが、サケの切り身のスライサーに参入して来られました。私たちは、開発はすごく早かったのですが、手で投入する半自動式。全自動式で切り身の重量もそろった競合社が、結構売れて、追い抜かれます。

ただ、向こうは新幹線の車両の要領で製造しますので、頑丈でデカイけれど、使用後の洗浄に時間がかかる。私たちは、食品機械の立ち位置で刃物から作ります。コンパクトな上に、価格が圧倒的に安い。使い勝手が良く、洗浄も容易なのが魅力です。

私たちが追い付いて、性能が良くなり、結局、競合社は採算が合わないと撤退されました。中小企業が、こんなことをやるんだねと評価をいただいて、今に至っています。

「ファブレス」(製造工場を持たないの意)という言葉がはやりました。アウトソーシングは格好いいな、スマートだと思っていたのですが、5、6台しか需要がない機械でも、作ってあげれば、ニーズは結構あります。お客様の要望に応じて、細かいところから積み上げていく過程で、ノウハウや技術が向上します。大きな事業は展開できなくても、細かなニーズに応じてあげれば、ものづくりは無限にあります。

### ◇「職人の技」超えたと文科大臣表彰◇

＜野菜の千切り、短冊切り、乱切りや肉類、ハムの薄切り、魚の切り分けなど、人が手で行う作業を効率化する吉泉産業の食品機械は約40種類、納入先は約2,000社に上る。＞

このうち、開発に8年間を要したCCDカメラ内蔵の魚の切り身スライサーは、2012年度の文部科学大臣表彰・科学技術賞(技術部門)に。消費電力などの省エネ性と、画像処理技術で制御する切り身の重量の均一さ(定真性)が、専門の職人技を超えたと評価された。

受賞したスライサーに限りませんが、努力して開発した機械が、うまく動いて、お客さんも納得された時は、いかんともしがたい喜びがあります。山の頂上に登ったアルピニストと同じです。技術者の喜びは、それしかありません。

(海外展開では)タイと中国に代理店を置いて、韓国には現地企業と合弁で2009年に「吉泉KOREA」を設立しました。

次は、米国で勝負してみたいですね。東南アジアも選択のひとつですが、機械の機能を落として、価格で勝負しないといけない。技術が、なかなか認められません。

日本の和食が無形文化遺産に登録されました。やはり、食の文化が進んで、食品の加工レベルが高くて、食に対してお金も出せる米国や欧州で勝負する方が、面白いだろうと思います。遠いので、なかなか行けませんけれど…。

### ◇地域の研究会で産学連携◇

＜佐々木社長は、立地企業などでつくる津田サイエンスヒルズまちづくり協議会の会長のほか、ひらかた地域クラスター産業研究会の会長も務める。研究会には、枚方市近隣のものづくり企業44社と地域の大学、高専、研究機関が参加し、産学連携に取り組んでいる＞

津田サイエンスヒルズ(以下「津田ヒルズ」と略称)は、交野市にいた当時から、第二京阪道路が完成すれば便利だし、移りたいなと思って大阪府に問い合わせましたが、研究機関専用の区画だと。その後、用途変更で工場立地が認められ、平成17(2005)年に進出します。

CCDカメラ内蔵のスライサーの開発では、研究会メンバーの大阪工業大情報科学部の先生に画像処理技術でアドバイスを頂戴し、とても助かりました。学研都市の企業ということで、地域の大学との垣根が低くなり、恩恵を受けています。その意味では、大阪府にも枚方市にも北大阪商工会議所にも感謝しています。津田ヒルズに移った成果で、実際に売上高は倍増しました。器(津田ヒルズ)が徐々に中身を作るのでしょうか。そういう企業が、ここには何社もあります。

研究会の最近のテーマは、医療機器ですね。枚方市は4月から中核市に移行しますが、竹内市長が「健康医療都市」を掲げておられて、研究会メンバーのある企業は、関西医科大学と骨導補聴器の共同研究を進めています。吉泉産業も、医療分野を次の柱にしたい。ステンレス部品の加工事業を始めましたので、例えば、iPS(人工多能性幹)細胞の培養槽など、出ても数が少ないものを…。中小企業は、少量品の製造が一番得意です。医療や健康は成長分野に位置付けられていますので、国の施策に中小企業も乗ってあげれば、と考えます。

同じ学研都市の精華・西木津地区とは、お互いのまちづくり協議会で、見学会や意見交換会などの交流を何度かしています。もっと近づいていけば、技術面などで新しい知恵が浮かぶのでしょうか…。そこは、お互いを結び付ける、なにかの工夫が必要かなと思っています。

### ◇58歳でフルマラソンに初挑戦◇

好きな言葉は、松下幸之助氏の「成功とは、成功するまで続けること」。スキー仲間と一緒に、第1回大阪マラソン(2011年)を、5時間半でなんとか完走。フルマラソンは58歳での初挑戦でしたが、翌年は沖縄のNAHAマラソン、昨年は還暦を記念してニューヨークマラソンに参加しています。

大阪マラソンの完走率は96%だったと後で聞いて、気持ちがあれは誰でもできるんだな、と。「成功とは…」と同じで、歩いたら気持ちが萎(な)えます。走り続けることが重要だと、改めて分かりました。

### ◇吉泉産業の概要

◇本社	大阪府枚方市津田山手 2-1-1
◇設立	1988年(創業1955年)
◇事業内容	食品加工機械の製造販売 ステンレス部品の加工生産
◇資本金	1,000万円
◇従業員数	80人
◇売上高	18億円(2013年2月期)

### ◇津田サイエンスヒルズ

枚方市東部の丘陵に位置する工業団地。近接する第二京阪道路が2010年に全線開通し、交通アクセスが大幅に改善。研究・開発機能を持つものづくり企業20社と大阪大学大学院自由電子レーザー研究施設が立地し、企業間交流を重ねている。13年春には大阪府立北大阪高等職業技術専門校が開校した。



Topics 4

# 「科学のまちの子どもたち」ロボットフェスティバル

「子どもたちと若き研究者の出会いが新しい未来を創造する」をテーマに「科学のまちの子どもたち」ロボットフェスティバル(主催:京都山城ロータリークラブ)が2月22日(土)、けいはんなプラザで開催され、ロボットに関心をもつ親子らおよそ370人が参加しました。

フェスティバルを共催した「けいはんなジュニアロボットクラブ「ジュニロボ」」(会長:伊藤潤一氏)は、昨年から精華町を拠点に小・中学生を対象としたロボット工作教室を運営していて、学研都市のロボット研究者とロボット好きの子どもたち、ロボットの研究者や技術者を目指している子どもたちとの交流を目的に、今回の催しを企画しました。同志社大学、大阪大学、ATR知能ロボティクス研究所、NICTユニバーサルコミュニケーション研究所、アクティブリンク株式会社など学研都市の研究機関や企業から参加した研究者たちは、実際のロボットや映像を使って、それぞれが研究している最先端のロボット技術を子どもたちにわかりやすく紹介するとともに、「将来、ロボットの研究者を目指しているなら、算数や理科、それに英語などのふだんの勉強が大切」などのメッセージを子どもたちに送っていました。そして休憩時間に行われたデモでは、研究者とロボットの周りにたくさん子どもたちが集まり、目を輝かせながら、研究者の解説に聞き入っていました。また「ロボットを学ぶ子どもたち」というプログラムでは、ロボカップ・ジュニア世界大会で毎年、好成績を収めている奈良高等工業専門学校5年の村田真奈美さんと「ジュニロボ」に在籍している精華町立山田荘小学校6年の川本稜生君が講演、ロボット競技会を目指す際の心構えや、ロボットを学ぶ面白さなどについて語りました。この日は村田真奈美さんや「ジュニロボ」の子どもたちによるデモも行われ、ロボットをめぐる子どもたちと研究者とのなごやかな交流がけいはんなプラザで展開されました。



橋本雅文先生(同志社大学)



橋下光次郎先生(大阪大学)



塩見昌裕先生(ATR)



杉浦孔明先生(NICT)



中野基輝先生(アクティブリンク(株))



作業支援用パワードスーツと講演する中野基輝先生



「ジュニロボ」で学んだ事柄を講演する川本稜生君



ラインレースに挑戦する「ジュニロボ」の子どもたち



レスキューコートを走る村田真奈美さん(右)愛用のロボット



## Topics 5

## 小谷卓也氏(日経BP社)が「健康産業」創出について講演 「けいはんなヘルスケア・イノベーション研究会」開催

けいはんなヘルスケア  
事業関連イベント

医療・健康・介護領域のイノベーションによる新産業創出に大きな期待が寄せられている。

12月4日、けいはんなプラザで開催された第9回けいはんなヘルスケア・イノベーション研究会で、日経BP社の小谷卓也氏が「健康産業」をテーマにして講演。この中で、わが国は高齢化の進展に伴って医療費の高騰や生活習慣病が増加、これに反して医師不足が顕在化し、「医療のコンシューマ化」が進むと指摘。これによって医療機器や健康管理サービスの対象市場が病院から一般診療所へ、さらには在宅へと大きく拡大していくと述べた。



この「医療のコンシューマ化」を支えるキーワードとして①POCT(あらゆる場所で迅速で簡便に精度の高い診断ができる検査のこと)②ウェアラブル(直接身に着けられるほど小さなデバイス)③非接触・非侵襲の3つが世界のトレンドとなっていると付け加え、これらが衣食住のなかに今後組み込まれ、新しいビジネスモデル創出に注目が集まるとの見方を示した。

第2部のけいはんなシーズ発表では、同志社大学理工学部電子工学科教授の松川真美氏が「超音波技術の新たなアプリケーション」というテーマで、脳内血管の手軽なスクリーニング手法について、その研究成果を紹介、事業化企業の参加を呼びかけた。

この研究は、脈波に含まれる反射波成分に着目して日常生活下でも非侵襲的に血管硬度を計測しようとするもの。動脈硬化の進行度が分かり、脳血管疾患の予防に役立ち、医療・介護・福祉分野での簡易測定ニーズが見込まれていることもあり来場者は熱心に聴き入っていた。

## Topics 6

## 関西プロモーション・セミナーで「けいはんな学研都市」をPR

2013年12月10日、関西パートナーシップ協議会(KPS)と関西国際戦略総合特別区域地域協議会の主催による『関西プロモーション・セミナー』が大阪・うめきたで開催された。KPSは、関西の自治体や経済団体等が協力し、関西の産業活性化及び民間主体による広域的な国内外企業への誘致活動推進を目的としたNPO。

今回は、「関西イノベーション国際戦略総合特区」を中心とした関西の投資魅力の紹介に焦点をあて実施された。(公財)関西文化学術研究都市推進機構からは稲田常務理事が発表者として出席し、『けいはんな学研都市の近況と今後の展望』と題して同特区の一つに指定されている「けいはんな学研都市」における取組みについて映像も交えながら分かりやすく紹介した。

当日は、在大阪モンゴル総領事館や在大阪ロシア連邦総領事館をはじめとする関西に拠点を置くおもな総領事館、海外の貿易投資機関や外資系企業および近畿経済産業局、地元自治体・企業などから出席した約80名が熱心に耳を傾けていた。

今後とも様々な機会を通して「けいはんな学研都市」に関する情報を継続的かつ地道に発信していくことの重要性を再認識したセミナーとなった。





左から、高橋代表取締役社長、大藤専務取締役

注目!企業インタビュー

# 京都プレス工業株式会社

代表取締役社長 高橋 眞一氏  
専務取締役 大藤 允裕氏

〒619-0216 京都府木津川市州見台8丁目2-1  
TEL: 0774-72-3551 FAX: 0774-72-3556  
URL: <http://www4.ocn.ne.jp/~kyopre/>

## interview

今回は、昨年創業50周年を迎えられた<京都プレス工業株式会社>の高橋代表取締役と大藤専務取締役にお話をうかがいました。

京都プレス工業株式会社様は、1963年(昭和38年)7月に設立され、その後、2008年(平成20年)4月に本社・ラボを木津川市の州見台へ移転されました。

「最初は、今の会長と私との2人で創めました。そして去年、創業50周年を迎えることができました。社員は全社で約70人です。ここ本社には約20人が勤務しています。本社では試作をメインに、富山工場では加工&量産をメインでやっています。

富山工場は創業してから10年目の(1973年)10月に新設しました。それは、お得意様である一部上場企業様が北陸に多くの工場を作られたので、<その対応をさせていただこう。>ということで、立ち上げることにしました。



もともと本社は木津町(現在の木津川市)の時に、山田川の近くにありました。今の京都工場です。そこが手狭になりまして、ちょうど土地を探していた時にURさんとの出会いがありました。

紹介された土地に降りて見たら、明るい感じだし、高台で広々としていて、道路の幅も広いし、それで移転を決めました。ここは桜並木もすごく綺麗なですよ。

それに、けいはんな学研都市では、結構、他の企業様とコミュニケーションを取る機会があって、(例えば最近では、(公財)関西文化学術研究都市推進機構主催の賀詞交歓会や木津川市主催の立地企業懇談会等。)お互いに横の繋がりが出来ることが良い点だと思います。

近隣の小学校や中学校から見学会などのお話をいただいたことがあるのですが、当社では大人数を対応することが出来ないで、少人数であれば是非お受けさせていただきます。とお答えしております。「体験」とまではいきませんが、「見学なら。」というお話をさせてもらっています。実際にはまだ来ていただけていませんが、今後は是非そういう機会を作っていって地域との関係も深めていきたいです。」と高橋代表取締役。

ワイヤーカット放電加工機  
プレス加工機  
ターレットパンチプレス  
マシニングセンター  
レーザー加工機  
ハイブリッドプレスブレーキ

「創造」をカタチに。  
進化し続ける加工技術がモノ作りの不可能を切り拓く。

京都プレス工業株式会社

「当社はおお客様のニーズをお聞きし、プレス、ワイヤーカッター、スクリーン、レーザー加工機等を使った加工、量産をメインにやっていますが、将来的には自社製品を出すことが1番良いと思っています。成功したら当社の事業基盤がもっと強くなるし、やっぱり自分のところで計画的に製造できるのがいいですね。それには、まだまだ色々な加工技術を勉強していかなければいけません。

昔は納期や単価を安くするというので、購入してもらっていたこともありまして。夜中も土・日も仕事していましたからね。また、そういう時代でしたしね。

お得意様にも恵まれてきましたので、受注には困りませんでした。大変助けていただきました。

しかし今は1番重視しているところは、品質です。技術的にも、いい加減な物は絶対に駄目だし、こちらもしっかりと対応しなくては。という気持ちでやっています。そしてこれからも、お得意様とは、誠心誠意の気持ちでお付き合いをさせてもらって、共存共栄でいかないと駄目だと思っています。当社独自のやり方も提案していきたいと思っています。」とも語られました。

### <会社概要>

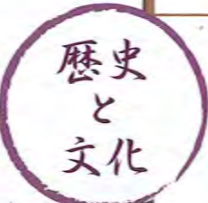
本社・ラボ/京都府木津川市州見台8丁目2番地1  
京都工場/京都府木津川市相楽大徳14番地  
富山工場/富山県砺波市孤島388番地  
大阪営業所/大阪府豊中市上津島1丁目4-14  
設立 昭和38年7月  
資本金: 1,000万円  
従業員: 70名  
営業品目: 精密プレス金型設計・製作  
: プレス部品加工・試作  
: 切削・機械加工部品

### <高橋代表取締役社長からのMESSAGE>

当社は1963年7月創業以来、常にお客様に満足していただける製品の生産を目標としてまいりました。近年当業界では「グローバル化」が著しく進展するとともに人口構造の変化により「成熟化」が顕著となり大きく構造的・技術的変化が生じてきました。このような経済環境の中、多様化するお客様のニーズにこたえられるベストパートナーとしての役割を果たすことを目指しています。

いち早く州見台に本社を置かれた京都プレス工業様、けいはんな学研都市の地の利を生かし、多くの企業様との出会いが自社製品開発につながるように、私たちもできる限りのご協力をさせていただきたいと思っております。

# 久貝氏と長尾 —正俊寺と菅原神社— (枚方市)



枚方市東部の長尾地区は、東に生駒山地がそびえる丘陵地です。古くから山根街道と宇治街道が交わり、河内山城両国の国境という重要な地でした。江戸時代に入り、久貝氏の領地となりました。今回は、長尾に関わりの深い久貝氏と、同氏が創建した正俊寺・菅原神社について紹介します。



正俊寺山門

## 1. 久貝氏について

久貝氏は徳川譜代の旗本です。初代の大坂東町奉行であった因幡守正俊が河内国交野郡の津田村等に領地を拝領しました。その後、加増を重ね寛永10年(1633)には石高は5,000石となりました。寛永20年(1643)、正俊は家臣の細谷善兵衛に命じ、荒れ地であった長尾の八田広を開墾させて再開墾を行いました。開墾の翌年福岡村と名付けられたこの地は、貞享3年(1686)8月に長尾村と改称されます。この間、正保5年(1648)に正俊が病没し、子息正世により慶安2年(1649)に正俊寺が、同3年(1650)に菅原神社が創建されます。



石造十三重塔

その後、元禄2年(1689)に正世の跡を継いだ正方が、要衝の地であった長尾に陣屋を建てて拠点としました。幕府の御用を務める正方は江戸にあり、陣屋には代官が置かれますが、先に述べた細谷善兵衛も

その一人となりました。陣屋の場所は現在の長尾元町2丁目、瑠璃光寺東側一帯であったと言われています。なお、陣屋門は津田の円通寺に移築され現存しています。

幕末期に入り正典の代には、ペリー来航により全国で海防への備えが急務となります。その頃長尾陣屋の代官であった小柳氏の指導で、長尾村の村民20名も陣屋で大砲や鉄砲の稽古を行ったと当時の古文書には記されています。

長尾の地は江戸時代を通して代々久貝氏に受け継がれていましたが、正典の次の正章の代で明治維新を迎え、領地は上知され、長尾陣屋も撤去となりました。

## 2. 正俊寺

正俊寺は久貝正世が父正俊の菩提を弔うために、慶安2年に創建した曹洞宗の寺院です。山号は長尾山といい、寺号は父の名を冠しました。本尊釈迦如来坐像と石造十三重塔は、久貝氏領地であった讃良郡中野村(現四條畷市)の正法寺から移したと伝えられ、共に鎌倉期の作とされています。特に、嘉暦2年(1327)の銘が刻まれている十

三重塔は、一部を失っているものの造立当初の姿をよく残しており、昭和45年(1970)2月20日、大阪府の有形文化財に指定されています。

本堂は元文年間(1736~41)に再建されたと考えられており、ほかに山門、鐘楼、観音堂等があります。観音堂は寛文6年(1666)に建立されたもので、元は菅原神社境内の中にもありましたが、明治時代の神仏分離令によって現在地に移されています。また山門前には久貝家墓所、住職墓域には細谷善兵衛の墓も建っています。

現在では1万5,000株のあじさいの植生でも有名で、あじさい寺とも呼ばれています。



菅原神社

菅原道真は学問の神様として有名ですが、古くは風雨や水火の神様として畏敬されてきました。この地に建立されたのも、五穀豊穡祈念の意味合いが強いと考えられます。

本殿、拝殿、社務所等のほか、末社に貴船神社(水神宮)と稲荷神社が建てられています。稲荷神社は久貝陣屋の西北にある稲荷山にあったものを明治初年に現在地に移したもので、石灯笼の銘から延宝6年(1678)の勧請とされ、久貝氏代々に尊崇されていました。

建立当初質素であった当社では、宝暦5年(1755)に本殿の建て直しと拝殿増築が行われ、文化4年(1807)には本殿が再建されるなど、数度の改築を経ています。近年にも平成6年(1994)に地元住民や氏子の方々により本殿、拝殿、社務所が再建され、現在に至ります。

正俊寺と菅原神社、どちらも広い境内を持ち、深い木々に囲まれており、落ち着いた佇まいです。一度足を運んで、長尾の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

## 3. 菅原神社

正俊寺の南に、菅原神社が建っています。周囲は鎮守の社が生い茂り、テンダイウヤク(天台烏薬、中国原産の常緑低木)の群生地として市内でも貴重な植物群落です。

長尾の開拓が進み村の人口も増えていく中、鎮守を建てて村の団結を図ろうとしたことにより当社が建立されたといえます。久貝氏の本拠が元々山城国乙訓郡久貝村(現京都府長岡京市)であったことから、正世の代になり山城の長岡天神の分霊を氏神として勧請しました。時に慶安3年、祭神はその名の通り菅原道真です。

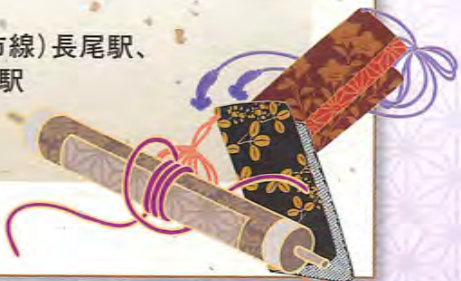


久貝家墓所

- 長尾山正俊寺 長尾宮前2丁目2-1
- 菅原神社 長尾宮前1丁目12-1

### アクセス

JR片町線(学研都市線)長尾駅、  
または京阪バス長尾駅  
バス停より徒歩5分



Topics 7

## 特別フォーラム「健康長寿ライフイノベーション ～産学連携アンチエイジングヘルスケア創出」

2月25日(火)、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構は公益社団法人関西経済連合会との共催により、予防医療に関する特別フォーラムを開催しました。

予防医療は、政府の成長戦略で重要な分野に位置づけられ、産学連携、医工連携、異業種参入の動きが活発化、技術革新が起き、新ビジネスが続々と生まれており、弊機構でも、2007、2011、2012年度と3度、フォーラムを開催してきました。

今回のフォーラムでは、特別講演として、2011年文化勲章を受章された、沖縄科学技術大学院大学 教授 柳田充弘氏に「網羅的血液メタボロミクスによる健康・疾病・老化へのアプローチ」と題してご講演いただきました。また、その後アンチエイジングの先駆事例として、京都大学アンチエイジング外来について、京都大学医学部附属病院 老年内科医師 近藤祥司氏、開発事例をソムノクエスト株式会社 社長 江口直美氏、同志社大学アンチエイジング予防医療について、同志社大学大学院 生命医科学研究科 教授 米井嘉一氏、開発事例をエイキット株式会社 生命医科学検査センター長 加納秀紀氏およびアークレイグループ



柳田 充弘氏

からサポート研究所 所長 河合博成氏にご講演頂き、最後にけいはんな学研都市において取り組んでいるヘルスケア事業について、弊機構 寺崎肇 プロジェクトディレクターおよび京都府立医科大学 特任准教授(産学公連携) 中西守氏から報告していただきました。

当日は、企業関係者など約90名にご参加いただき、非常に熱心に聞いていただきました。

Topics 8

## ATR開発の英語学習ソフトで授業 ＝京都府精華町の東光小 シャープの電子辞書使い＝

国際電気通信基礎技術研究所(ATR)の関連会社、ATR Learning Technology開発の英語学習ソフト「ATR CALL」を利用した国際理解教育の授業が、京都府精華町の町立東光小学校で1、2月に実施された。5年生の児童が対象で、ソフトが搭載されたシャープの電子辞書を一人1台ずつ手にし、英単語の発音やつづりの書き方に挑戦。マイクに吹き込まれた発音を自動的に採点し、100点満点で何点かが表示される機能に歓声を上げていた。

このソフトは、脳が音声を処理する仕組みに関するATRの研究から誕生した。複数のネイティブの音声を聞きながら実際に発音して、「聞く」「話す」「読む」「書く」力を養う。「R」と「L」の発音や聞き取り、言葉のリズム感覚などの学習に効果がある。



東光小学校での記者会見(1月15日 中央が山田CTO)

コンピューター利用の学習システムとして企業、大学などに導入されているが、電子辞書に搭載した初心者や小中学生向けのシリーズをシャープが発売。ATR Learning Technologyの山田玲子代表取締役CTOが同小の英語クラブの児童を指導している縁があり、総合的な学習の時間での活用になった。5年生全員が計8時間の授業を受け、効果を検証した上で、新学期からの本格導入を検討する。



けいはんなプラザ イベントカレンダー

一般の皆様へ

4月

けいはんな映画劇場「そして父になる」

第66回カンヌ国際映画祭審査員賞受賞

6年間育てた息子は、病院で取り違えられた他人の子だった。  
家族に起きた<事件>を通して、その愛と絆を描いた衝撃の感動作。

- 日時** 4月10日(木)・12日(土)[10:30~・13:30~・16:15~]、  
4月11日(金)[10:30~・13:30~・18:00~]  
※日曜日の上映はございません。
- 場所** けいはんなプラザ[メインホール]
- 料金** ※当日券のみ 一般/1,000円、小・中学生、シニア(60歳以上)、  
けいはんなプラザ友の会会員/700円
- 問合せ** (株)けいはんな事業部
- TEL** 0774-95-5115



4月

けいはんなプラザ・プチコンサート

- 日時** 4月2日(水)[12:15~12:45]  
スプリングコンサート  
出演者 竹本 絢乃(ソプラノ) 齋藤 奈都美(ピアノ)  
演奏曲 ふるさと 私の愛しいお父様
- 4月9日(水)[12:15~12:45]  
ヴァイオリンとピアノで奏でる春のクラシック  
出演者 河端 綾(ヴァイオリン) 波戸岡 美紗(ピアノ)  
演奏曲 ベートーベン/バイオリンソナタ 作品番号24  
J.S.バッハ/バルティータ3番 BWV1006より
- 4月23日(水)[12:15~12:45]  
スプリングコンサート~ショパンとスクリャーピンを中心に~  
出演者 波戸岡 美紗(ピアノ)  
演奏曲 A.スクリャーピン/12の練習曲op.8より第2、4、12番  
※演奏曲は変更になる場合があります。

- 場所** けいはんなプラザ アトリウムロビー
- 料金** 無料
- 申込** 不要
- 主催・問合せ** けいはんなプラザ・プチコンサート実行委員会
- TEL** 0774-95-5105

出演者募集中

- 参加条件
  - 1) 音楽大学の在学生(3回生以上)、大学院生を含む若手音楽家(30歳まで)
  - 2) 最終学歴卒業から5年以内の方
- 内容  
クラシック音楽、邦楽、伝統芸能
- 演奏形態  
独奏・独唱から  
少人数のアンサンブル
- 演奏時間 30分
- 演奏方法  
原則として音響機器(マクロフォン・カラオケなど)を通さない自然音  
詳細は、下記のURLをご覧ください。  
<http://www.keihanna-plaza.co.jp/event/petitconcert/>

6月

けいはんなフィルハーモニー管弦楽団演奏会

- 日時** 6月15日(日)
- 開演時間** 14:00開演(13:30開場)
- 場所** けいはんなプラザ[メインホール]
- 指揮** 牧村 邦彦(客演指揮)
- 曲目** ブルッフ/  
交響曲第2番 Op.36  
ブラームス/  
ハイドンの主題による変奏曲 Op.56  
J.シュトラウス/  
ウィーンかたぎ Op.354
- 料金** 一般/1,000円  
けいはんなプラザ友の会会員/700円  
※未就学児入場不可
- チケット取り扱い** (株)けいはんな 事業部
- TEL** 0774-95-5115
- 主催** けいはんなフィルハーモニー管弦楽団
- 問合せ** Web: [khn-fair@khn.nict.go.jp](mailto:khn-fair@khn.nict.go.jp)  
E-mail: [info@kpo.jp](mailto:info@kpo.jp)



※けいはんなプラザのイベント詳細は、ホームページをご覧ください! <http://www.keihanna-plaza.co.jp>

## 海外ベンチャー起業事情(アメリカ編)

2013年9月に(公社)関西経済連合会と駐大阪・神戸米国総領事館の共同事業である米国派遣プログラムにより、アメリカのベンチャー事情、産業クラスターを視察する機会を得た。ノースカロライナ州ローリー、テキサス州オースティン、カリフォルニア州サンフランシスコ・サンノゼ(シリコンバレー)を訪問した。

シリコンバレーについては、アップル社のマウスを世界で初めてデザインしたIDEO社や、個人の空き部屋等を貸す宿泊サイト運営で注目を浴びるAirbnb社などを訪問した。そこには自由な議論を重んじる雰囲気があった。IDEO社ではインターンの学生が、会社の庭の大木に勝手にツリーハウスを作ったり(写真参照)、車好きの社員の休暇中に事務所内に中古のフォルクスワーゲンを持ち込み、その中に車好きの社員のデスクを入れてしまったり。そのような自由な風土は衝撃的であった。

シリコンバレーは他にも学ぶべき点は多くあったが、多くの書籍でも紹介されているため、詳細はそれらに委ねたい。テキサス州で印象的だったのは、TETFという州のファンド。産業支援のために500億円規模のファンドを運用する。テキサス州では、産業支援において様々なメニューを用意しているが、最も重きを置いているのがTETFというファンド(補助金はそれほど重要視されていない)。ビジネスモデルを重視して審査され、いったん投資を決めるとM&Aや上場などのゴールを目指す。比較的短期のリターンを目指す民間のファンドと競合しないよう、中長期(5~10年)かつリスクの高い分野に資金を投じる。投資先の中には失敗に終わる案件もあるが、一部の投資先は大きな利益ももたらし、ファンド自体の運用成績はプラスになっているという。

ノースカロライナ州のリサーチトライアングルパークというサイエンスシティは、これまで50年かけて成長してきた。さらに50年後の目標を描くという長期ビジョンが印象的であった。

シリコンバレーを除くと、州政府が強い力で州内を1つの方向にまとめていた。一方で、けいはんな学研都市が3府県8市町にまたがっていること(トップが1人でないこと)に大変驚かれた。

いずれの都市も何らかの価値観(例:模倣でなく新しいことをしたい。州経済発展のために産学官が連携する。都市内では困ったときは助け合う。など)を共有し、交流を重視し、明るい雰囲気の中で交わっているのが印象的であった。(中村)



### (公財)関西文化学術研究都市推進機構



〒619-0237

けいはんな学研都市(精華町光台1丁目7) けいはんなプラザ・ラボ棟3階

TEL: 0774-95-5105 FAX: 0774-95-5104

### 編集後記

ロボットが理科室で小学5年生の授業を“参観”し、休憩時間に児童と交流する…。昨年と今年の冬、京都府精華町立東光小学校で、こんな実証実験が行われました。ATR知能ロボティクス研究所による実験で、文部科学省の新学術領域「人とロボットの共生」に関する研究の一環です。

ATRが開発した「ロボビーII」は、身長1m20cm。「何を食べているの」。友達に接するような質問に、「電気。でも、水は苦手なんだ」といった会話も交わされたそうです。

本号でも紹介していますが、けいはんな学研都市では、ロボットに関する研究が活発です。生活支援や介護医療だけでなく、人型ロボットが学びの場に介在し、協働して新しい知恵を創り出す時代が、近い将来、きっと実現するでしょう。

昨冬の実験に参加した5年生は、今春、中学校の門をくぐり、満開の桜の下、新生活をスタートさせました。ロボビーとの触れ合いは、新中学生にどんな思い出を残したのでしょうか。(常)

URL <http://kri-p.jp>